

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	矢野 海斗
所属機関	国立がん研究センター中央病院 慶應義塾大学医学部外科学（呼吸器）
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	European Respiratory Society (ERS) International Congress 2023 (欧州呼吸器学会 2023)
渡航期間	自 2023年9月9日 至 2023年9月14日
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	Poster session: Unravelling diagnostic and treatment modalities in lung cancer
<p>研究成果（要約：800字）</p> <p>今回の学会では Feasibility of using bronchoscopic specimens for next-generation sequencing in resectable non-small lung cancer というテーマにてポスター発表をさせて頂きました。周術期治療の開発に伴い、遠隔転移を伴わないような切除可能肺癌においても遺伝子解析の需要が増えていくであろうことに注目し、気管支鏡下生検の標本が NGS 解析に適しているかどうかを解析しました。ターゲット病変ごとに層別化して切除可能肺癌と切除不能肺癌にて後方視的に比較検討しましたが、気道内病変や気管/気管支周囲病変では NGS 解析成功率は高い確率で解析成功しておりましたが、末梢肺病変においては解析成功率が低く、特に切除可能肺癌にて低いことがわかりました。末梢肺病変より NGS 解析を見越した検体を採取する場合は、デバイス変更等、より良い検体を採取する工夫が必要であると考えられました。</p> <p>今回参加した学会は非常に規模が大きく、呼吸器領域の実に様々な分野で議論がなされていました。セッションや企業展を見てみると、遺伝子解析や新規デバイス、ロボット支援下の手技等は話題性のあるテーマであるのだなと感じました。欧州の学会であるため日本との雰囲気の違いに戸惑う部分もありましたが、どうすれば上手く伝わるか自分なりに色々と考えてポスター発表に臨むことができ、大変貴重な経験になりました。また、他の日本人の先生の発表も現地で聞くことができ、大変刺激になりました。実際に現地に足を運んでみないとわからない事も多く、国際学会へも積極的に臆せず参加することの大切さを感じました。今後ともエビデンスのブラッシュアップを心がけつつ、臨床・研究ともに邁進していきたいと感じました。</p> <p>この度は大変貴重な機会を頂くことができ、誠に有難うございました。</p>	